

8－2 技術・家庭（家庭分野）

（１）第１学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

この教科に対して興味・関心があるかアンケートを実施したところ、全体の87%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 日常生活において、学習内容を実践する機会が少ない傾向にある。
- ・ 特に衣服の補修をする機会や調理に携わる経験が少ない生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対しては意欲的であるが、実践経験が少ない。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 生活の自立に必要な基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けるための指導。
- ・ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う指導。
- ・ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う指導。
- ・ 製作活動を行う際の安全管理の徹底。
- ・ 学習者用端末の効果的な活用。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することができるよう指導を工夫する。
- ・ 栄養素の種類と働き、日常食の調理などについて学ぶことで家庭での実践を促す。
- ・ 生活に役立ち、短時間で製作が可能な小物の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 視覚教材を活用し授業の流れを提示することで、見通しをもった学習ができるようにする。
体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。
- ・ 製作活動では、作業工程毎に実物見本を示し、作業内容を分かりやすくする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 長期休業中に家庭での実践課題に取り組ませる。
- ・ 日常生活と関連付け、時事問題を取り入れながら指導する。
- ・ 生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動の充実を図る。

(2) 第2学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の81%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 日常生活において、学習内容を実践する機会が少ない傾向にある。
- ・ 特に衣服の補修をする機会や調理に携わる経験が少ない生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対しては意欲的であるが、実践経験が少ない。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 生活の自立に必要な基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けるための指導。
- ・ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う指導。
- ・ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う指導。
- ・ 製作活動を行う際には、安全管理の徹底。
- ・ 学習者用端末の効果的な活用。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することができるよう指導を工夫する。
- ・ 身近な被服の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 視覚教材を活用し授業の流れを提示することで、見通しをもった学習ができるようにする。体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。
- ・ 製作活動では、作業工程毎に実物見本を示し、作業内容を分かりやすくする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 長期休業中に家庭での実践課題に取り組ませる。
- ・ 日常生活と関連付け、時事問題を取り入れながら指導する。
- ・ 生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動の充実を図る。

(3) 第3学年

① 分析と生徒の状況

ア 分析

この教科に対して興味・関心があるか尋ねたところ、全体の81%の生徒が肯定的な回答をしており、多くの生徒が家庭分野の授業や学習内容に対して意欲的である。

イ 学力の状況

- ・ 日常生活において、学習内容を実践する機会が少ない傾向にある。
- ・ 特に衣服の補修をする機会や調理に携わる経験が少ない生徒が多い。

② 本校の課題

ア 学習面（生徒の課題）

- ・ 家庭分野の授業や学習内容に対しては意欲的であるが、実践経験が少ない。
- ・ 特に、消費者問題や幼児に関する分野は、発達段階的にも生徒自身が関わる機会が少ないため理解に繋げることが難しいようである。

イ 指導面（教師の課題）

- ・ 生活の自立に必要な基礎的な理解と、それらに係る技能を身に付けるための指導。
- ・ 家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを理論的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養う指導。
- ・ 自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う指導。
- ・ 製作活動を行う際には、安全管理の徹底。
- ・ 学習者用端末の効果的な活用。

③ 授業改善案

ア 活用を取り入れた授業への取組

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」となる授業展開を工夫する。
- ・ 協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫することができるよう指導を工夫する。
- ・ 家族・家庭生活や幼児の成長について学ぶことで家庭でのコミュニケーションを促す。
- ・ 消費生活について学ぶことで、自ら判断し行動できる力を養う。
- ・ 生活に役立ち、短時間で製作が可能な小物の製作を題材にする。
- ・ 生徒一人一人の進度に応じて、作品に創意工夫ができるようにする。

イ 特別支援教育の視点を取り入れた授業への取組

- ・ 視覚教材を活用し授業の流れを提示することで、見通しをもった学習ができるようにする。
体験的な学習活動を行う際には、タイマーを活用し時間の区切りを明確にする。
- ・ 製作活動では、作業工程毎に実物見本を示し、作業内容を分かりやすくする。

ウ 家庭学習の定着

- ・ 時事問題を取り入れながら社会問題について関心をもつように促す。
- ・ 生活の科学的な理解を深めるための実践的・体験的な活動の充実を図る。